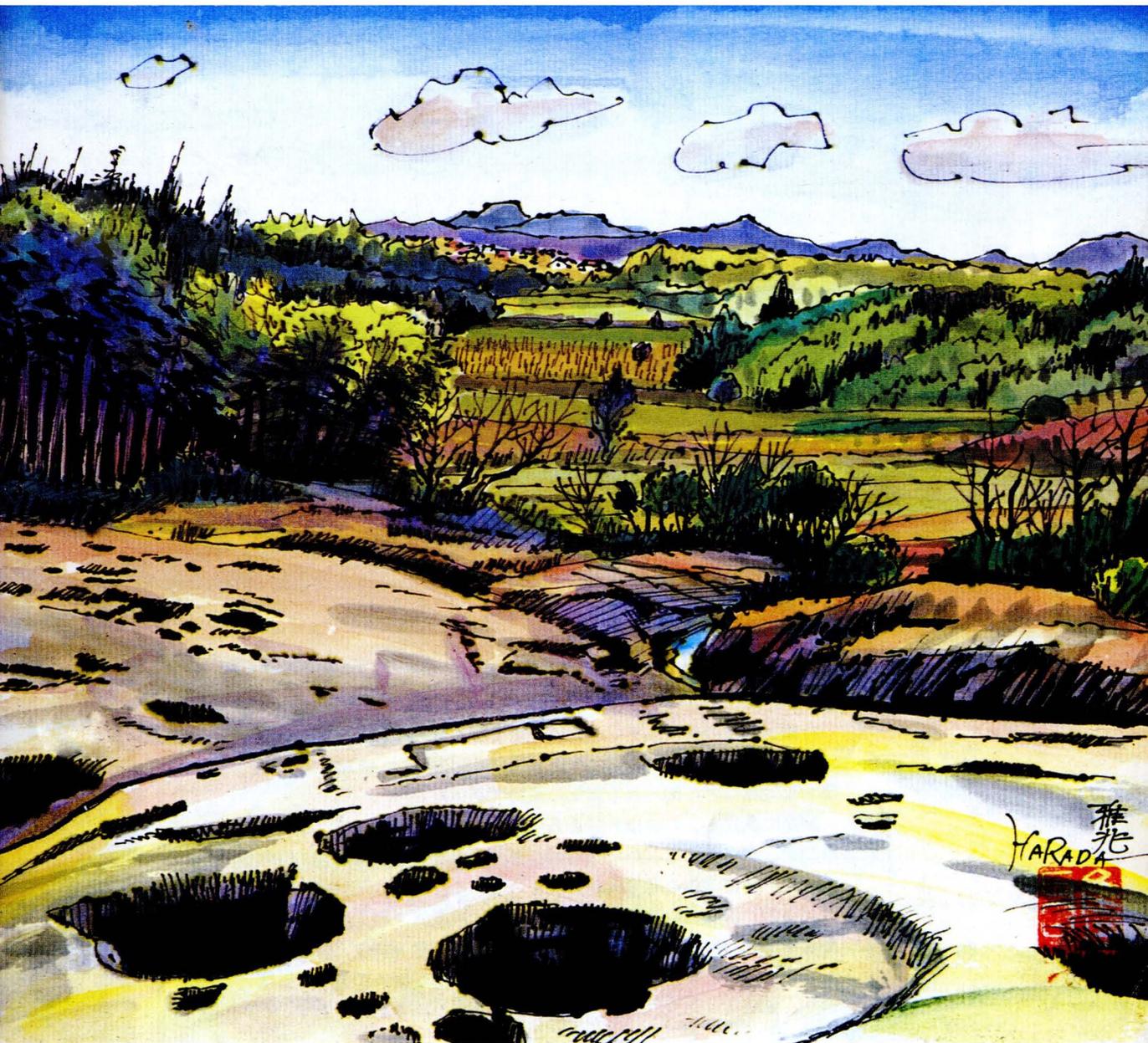


福岡県公民館大会



下稗田遺跡

第29回

<表紙> 「下稗田遺跡風景」

現代美術家協会会員 原 田 雅 兆 作

行橋市西部の長峽川ぞいの丘陵地帯では大規模な住宅団地の開発が進められている。丘陵には、弥生時代（BC 300～AD 300）の集落・墓地群などが知られる周知の遺跡であった。

開発に先立ち、行橋市教育委員会を中心として考古学者、地元の専門家、県文化課などからなる調査指導委員会を発足させて、54年度から下稗田遺跡の発掘調査を行なっている。広さは約10万坪（33万㎡）で、調査の結果弥生時代の住居跡・貯蔵穴・箱式石棺・甕棺などが、また出土品としては膨大な量にのぼる壺・甕などの土器・石剣・石包丁などの石器、鋏、杵などの木製品が次々に発見されており、秘められた古代のロマンが次第に明らかにされつつある。

目 次

第 29 回 福岡県公民館大会に寄せて	2
大会役員一覧	3
第 29 回 福岡県公民館大会開催要項	4
昭和 56 年度 公民館優良役職員表彰一覧	12
昭和 56 年度 優良公民館表彰一覧	20
県内公民館活動・研究事例紹介	26
